

01 NEWS

年金受給者向け感謝の集い開く

3 すべての人に健康と福祉を

3月18日、年金受給者を対象とした「お友達ご紹介キャンペーン」に連動した感謝の集いを、S&D秋川キララホールで開きました。約11年ぶりの実施となり、延べ10000人を超える来場者でにぎわいました。当日は、歌手の新沼謙治さん、松居直美さんによる歌謡ショーのほか、お笑いコンビ「おぼん・こぼん」による漫才が披露され、会場は終始盛り上がりしました。



来場者で盛り上がる会場

02 NEWS

フリーズドライみそ汁へ
のらぼう菜300kg出荷

12 つくる責任 つかう責任

3月25日、地域特産の「のらぼう菜」約300kgを、フリーズドライ味噌汁の原料として出荷しました。のらぼう菜は地元の15戸の農家から集めました。

JAでは、のらぼう菜を使ったフリーズドライ

味噌汁を毎年6月から

販売しており、年間約

1万8000食を展開

しています。昨年は12

月末を待たずに完売す

るなど、人気の加工品

として定着しています。



のらぼう菜を集荷する職員

03 NEWS

令和8年度広報委員会開催

11 住み続けられるまちづくりを

4月9日、令和8年度第1回広報委員会を開きました。同委員会は、組合員及び地域住民への適正な情報提供と、広報誌・各種新聞・SNS等への投稿を通じて、JA活動の活性化を図ることを目的に組織されています。各支店・経済センターの広報委員ら計22人が参加し、谷澤俊明組合長より任命書が交付されました。谷澤組合長は「組合員の皆さまにJAの活動をPRできる機会として積極的に取り組んでほしい。タイムリーな情報発信を期待しています」と話し、広報活動の充実を求めました。



谷澤組合長(前列中央)と広報委員ら

04 NEWS

うこつけいなどヒナを配布

8 働きがいも経済成長も

4月15日、注文を受けていた生産者16人へヒナの配布を行いました。今回配布されたのは、東京うこつけい167羽、東京しゃも2羽、ロードアイランド種20羽の計189羽です。このヒナは、都農林水産振興財団青梅畜産センターで育成されたもので、経済センターの職員がヒナを受け取り、生産者へ手渡しました。

東京うこつけいは、肉質や

卵の品質の高さで知られ、地

域ブランドとしての価値向上

が期待されています。東京

しゃもやロードアイランド種

もそれぞれの特性を生かし、

多様な養鶏経営に寄与してい



ヒナを受取るセンター職員ら

05 NEWS

各店舗の決意を示す
「スローガン宣言」

8 働きがいも経済成長も

4月17日、トラストルピアにおいて「令和8年度JAあきがわ進発式」を開きました。進発式では、今年度の活動方針について各役員等からトップメッセージを発信しました。

その後行われた意見交換会では、各店舗の所属長が壇上に上がりそれぞれスローガンを発表しました。所属長が店舗運営の方向性や部下への期待を明確に示し、組合一丸となって挑戦する姿勢を共有することを目的としており、今回が初の試みです。「今日も笑顔でフッカル宣言!!」「すべては農家・組合員のために」「信頼と笑顔」など、スローガン発表のたびに職員から歓声が上がるなど、会場は大いに盛り上がりしました。

このイベントは、単なる発表の場ではなく、各店舗が掲げる理念を共有し、互いに刺激を受けながら新年度のスタートを切る象徴的な機会となりました。所属長たちの力強い宣言が、今年度の店舗運営に新たな風を吹き込むことが期待されます。



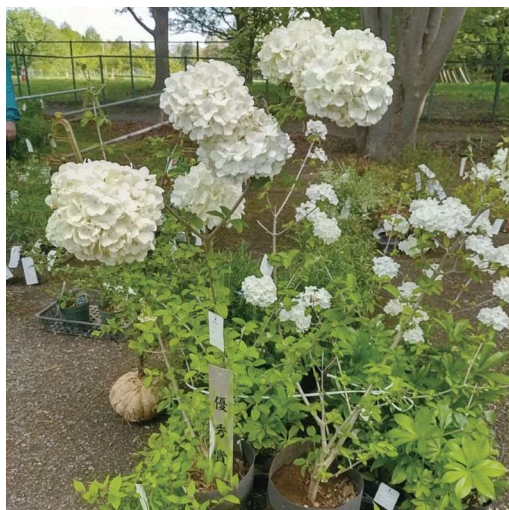
スローガンを発表する所属長ら

06 NEWS

第55回東京都農業祭 「植木の部」入賞

9 定額と技術革新の
事業をつくらう

4月17日、調布市神代植物公園で、東京都農業祭（植木の部）が開かれ、都内全地域から587点の出品がありました。
東秋留地区の平野久雄さん（ひらのひさお）が5点出品し、「ビバーナム・ステリーレ」と「コデマリ ピンクアイス」の2点が優秀賞を受賞しました。
18、19日に一般観覧と即売会が行われ、園芸資材の販売や植木園芸相談などにぎわいました。



優秀賞のビバーナム・ステリーレ



農業祭会場

パンチ

07 NEWS

第2回あぐりスクール開校

4 質の高い教育を
みんなに

4月18日、親子で農業に親しむ「あぐりスクール」を開校し、第2回目の活動が行われました。参加した17人の親子は、春のやわらかな日差しのもと、畑での作業を通じて農業の楽しさと大変さを体験しました。

この日は、トウモロコシの種まき、里芋と京芋の植え付け、ジャガイモの土寄せ、そして収穫を終えたのらぼう菜の片付けなど、多岐にわたる作業に取り組みました。

参加者は慣れない農作業に汗を流しながら、充実した時間を過ごしました。



ジャガイモに土寄せする参加者

08 NEWS

母の日に花栽培農家と販売強化

12 つくる責任
つかう責任

経済センターぐりむは、5月10日の母の日に合わせ、5月1日から10日まで売り場づくりを行いました。今回が初めての取り組みで、花栽培農家や地元花店と協力し、母の日用シールを切り花に貼り付けたり、手作りのポップを売り場に飾ったりとお客様に季節感を感じてもらえる工夫を施しました。

さらに、地元花店からは、プレゼント用に包装されたカーネーションやせっけん素材で作られたソープリフラワーなどが販売され、売り場全体を華やかに演出しました。



母の日をPRする職員

パンチ

09 NEWS

子ヤギ続々誕生

12 つくる責任
つかう責任

あきる野市養沢の「養沢ヤギ牧場」で、親ヤギ11頭から約22頭の子ヤギが誕生しました。牧場を営む堀周さん（ほりしゅう）は、出産シーズンに備え2か月前から子ヤギ用の小屋を自ら建築し、子ヤギたちが安心して過ごせる環境を整えました。新しく完成した小屋では、子ヤギたちが元気にいっばいに走り回り、柵の間から顔をのぞかせる愛らしい姿が訪れる人を和ませています。堀さんは「今年も無事にたくさん生まれて安心した。元気に育ってほしい」と笑顔で話します。

同牧場では、自宅裏にある加工所でヤギ乳を使ったチーズづくりにも取り組んでいます。昨年は世界最大級のチーズコンテスト「World Cheese Awards2025」で SuperGold 賞を受賞し、出品された5244品の中からTOP14に選ばれました。今年搾ったヤギ乳を使ったヤギチーズは5月上旬から、JAの直売所などで販売開始しています。



柵から顔を出す子ヤギ